

ステータス:	終了	開始日:	2011/07/07
優先度:	通常	作業時間の記録:	0.00時間
担当者:			
カテゴリ:			
対象バージョン:			
説明			
Xコマンドの遅延指定対象拡大。FINGコマンドにてメンバー単位指定が可能に。			
関連するチケット:			
関連している Bug # 52: (V6.00)マクロでX遅延を利用すると2回目以降の再現で遅延が効かない			
	終了	2011/07/10	2011/07/11

## 履歴

#1 - 2014/01/08 07:58 - Redmine Admin

; 《Ver6.0 開発後記》2011.07.06

;

; 整数部が桁上げされる節目のバージョンアップですので、もう少し派手な更新内容を当初は考えていたのですが、残された検討テーマや課題は難しいものばかりで、結局ギブアップしてしまいました。ごめんなさい(苦笑)。

; 1つは前回リリースしたXコマンドの遅延機構を拡大したことです。X遅延は多くの方が待ち望んでいたようでリリース後反響が大きかったのですが、X7に限定した仕様に対して再考の要請が起きました。るうさん、諸熊さん、H.N.WPKIDSさん、MIZさん、PT2Kさん、浅川さん達の掲示板によるご意見を参考に、今回の改訂でX0~X127の範囲で遅延を可能にしました。Muse予約コマンドとXコマンドとのエイリアス化というアイデアも頂きましたが今回は見送りました。また、そもそも遅延処理に意味の無いコントロールもありますが、本機構を活用するのはスーパーユーザー諸氏であると楽観し、その利用節度を委ねようと思います。

; 今1つは、FINGコマンドでメンバー単位にセット対象フィンガーを指定できるようにしたことです。このアイデアはH.N.WPKIDSさんが掲示板で展開してくれました。それは表面上の仕様設計に留まらない、互換性や整合性にまで言及した完璧な提言でした。ほぼそのまま採用しております。ご提案ありがとうございます。なお本開発を通じて、譜面モニタへの表示属性データで不要なものが残存している箇所を見つけ、対処することが出来ました。重ねて感謝致します。

; 以上、結果として今回の改版は機能強化レベルの2つとなりました。残された山は登頂困難なものが多いですが、体力、知力、そして気力が続く限り、Muse開発を継続する所存ですので、今後ともお付き合いの程お願い致します。